



「北白川だより」 学校評価 臨時号

令和5年9月15日
京都市立北白川小学校
校長 藤林 弘之

令和5年度 学校教育目標

『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』

～目標の実現に向け努力する意欲・態度と問題解決能力を培う～

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、夏休み前の学校評価にご協力いただき、ありがとうございます。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群とB群で「できている」、C群とD群で「できていない」と大きく2つに分けて分析しています。

[学習面]

		A	B	C	D
児童	① がくしゅうのめあてがたっせいできている。	52.2%	39.7%	6.0%	2.1%
	② せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	58.8%	34.3%	5.7%	1.2%
	③ じゅぎょうちゅうすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。	46.0%	34.0%	16.4%	3.6%
	④ よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみについている。	60.3%	31.6%	7.2%	0.9%
	⑤ いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	61.5%	27.8%	9.9%	0.9%
	⑥ すすんでどくしよをしている。	57.9%	21.8%	15.8%	4.5%
	⑦ すすんでうんどうをしている。	60.6%	26.9%	9.9%	2.7%
保護者	① 我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	51.2%	43.3%	5.2%	0.3%
	② 我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができる。	38.1%	50.2%	11.1%	0.7%
	③ 我が子は、進んで自分の考えを話すことができる。	36.3%	47.4%	14.9%	1.4%
	④ 我が子は、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が見に付いている。	52.6%	40.8%	4.8%	1.7%
	⑤ 我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができる。	35.6%	41.9%	20.4%	2.1%
	⑥ 我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	41.2%	40.5%	17.0%	1.4%
	⑦ 我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	47.1%	32.9%	18.0%	2.1%
教職員	① 確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%
	② 友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣をつけるように取り組んでいる。	57.9%	31.6%	10.5%	0.0%
	③ 授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	52.6%	47.4%	0.0%	0.0%
	④ 基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	36.8%	52.6%	10.5%	0.0%
	⑤ 家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	10.5%	84.2%	0.0%	5.3%
	⑥ 読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	36.8%	52.6%	5.3%	5.3%
	⑦ 進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	15.8%	57.9%	21.1%	5.3%

※本号では7月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表面には＜学習面＞、裏面には＜生活面＞を載せています。表のAは「よくできている」Bは「だいたいできている」Cは「あまりできていない」Dは「できていない」を示しています。

【③「じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。」の項目より】

1年前と比べ、約8割の児童が変わらず「できている」と答えています。A群・B群の割合で見ると、A群が昨年より5.3%向上していることから、授業で取り組んできたコミュニケーション能力の育成の成果が伺えます。懸念されるのは、「できていない」と回答している20%の児童です。経年変化があまり見られないということは、考えを表現することが苦手な児童は、苦手なまま大きくなっていくことが考えられます。もちろん、授業で挙手して発表することが全てではありませんが、授業で挙手をしている人は、たとえそれが1日1回でも、6年間で1200回以上発表していることになります。そのため、担任は、ペアやグループの発表、日直のスピーチ等、全員が表現する機会をもてるように工夫をしながら進めています。表現する力は、当然、表現することでしかつきませんので、私たち大人が親切心で先回りをして過ぎてしまうと、子どもが表現する機会を奪ってしまうかもしれません。今後、コミュニケーションの機会を積極的につくっていきたいと考えています。

【⑤「いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。」の項目より】

児童の「できている」は、89.3%でした。1年前からは4.3%向上しています。特に、A層が8.7%増えていて、ご家庭で自主性を伸ばしていただいている結果だと考えます。宿題は、反復練習することにより学習の定着を図ったり、自宅で学習する環境や習慣をつくったりすることが主な目的です。また、好き嫌いだけでなく、すべきこと・しないといけないことをしようとする中で、「粘り強くやり抜く」「感情のコントロール」「計画を立てて実行する」等、表面や数値には表れにくい「非認知能力」を育成することも期待できます。もちろん、個人差はあるので、なかなか力がつかない場合もありますが、今後も引き続き、よろしくお願いいたします。大人でも、仕事も家事もすべきことをどうしたら前向きにできるか、自分のためになるか、効率良くできるか等、考えながらされている方もおられると思いますので、素地を少しずつでもつけていけたらと考えています。

【⑥「すすんでどくしょをしている。」の項目より】

1年前と比べると、児童の「できている」は、ほとんど変わっていませんが、A層が8%増えていました。コロナ禍の昨年度までは、図書館への入館に制限をかけていましたが、今年度、制限もなく自由に借りれるようになりました。また、学校司書が月1回、図書館だよりを発行したり、図書館でコーナーをつくったりして、お薦めの本を紹介しています。引き続き、図書ボランティアの方々にもご協力いただき、図書館開放やよもよもタイム等、子どもたちが本を身近に感じられるようにしていただいています。このような理由で、本に興味がある子どもにとってはより身近に感じて、A層が増えていくと考えられます。ただし、一方で、まだ5人に1人は進んで読書をしていないと捉えることもできるため、学校では本を手にする機会を今後もつくっていきたいと考えています。

※保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

[生活面]

		A	B	C	D
児童	① じぶんからすすんであいさつをしている。	62.1%	34.0%	3.3%	0.6%
	② いえやがっこうのルールをまもっている。	49.6%	44.2%	5.7%	0.6%
	③ そうじやかたづけをきちんとしている。	55.5%	35.8%	7.5%	1.2%
	④ こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	48.7%	28.4%	16.7%	6.3%
	⑤ だれにたいしてもていねいなことばではなしている。	31.9%	44.8%	20.6%	2.7%
	⑥ にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	44.5%	40.3%	12.8%	2.4%
	⑦ じぶんにはがんばっていることがある。	71.6%	23.0%	4.5%	0.9%
保護者	① 我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	52.9%	42.9%	4.2%	0.0%
	② 我が家では、家や学校のルールを守るように働きかけている。	48.8%	49.5%	1.7%	0.0%
	③ 我が家では、掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	17.6%	60.6%	20.1%	1.7%
	④ 我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	41.2%	52.2%	6.2%	0.3%
	⑤ 我が家では、丁寧な言葉づかいで話すように心がけている。	28.0%	54.7%	17.0%	0.3%
	⑥ 我が家では、苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	34.3%	55.0%	10.4%	0.3%
	⑦ 我が家では、子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	62.6%	36.0%	1.4%	0.0%
教職員	① 自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	68.4%	26.3%	5.3%	0.0%
	② 家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	68.4%	21.1%	10.5%	0.0%
	③ 自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	63.2%	26.3%	10.5%	0.0%
	④ 子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	63.2%	31.6%	5.3%	0.0%
	⑤ 誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	47.4%	47.4%	5.3%	0.0%
	⑥ 子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
	⑧ 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%

【①「じぶんからすすんであいさつをしている。」の項目より】

1年前と比べ、「できている」はほぼ変わりなく、高い水準を保っています。これまでに学校・家庭・地域が一丸となって、日々積み重ねて取り組んできた成果だと思います。今年度からマスクを外してもよくなり、表情や口の動きを見やすくなったこともコミュニケーションの後押しをしていると考えます。コミュニケーションをとるときには、表情や仕草、言葉等ちょっとしたことから相手の気持ちや考えを汲み取ることもあります。目を合わせて話すと、無意識に自分を大切にしてもらっていると感じているかもしれません。教室では、名前を呼んでも返事をしない、目が合わない児童もいます。ただ、私たち大人もどうでしょうか。以前、学校運営協議会でも話題に上がりましたが、仕事をしながら、スマホを見ながら、〇〇しながら子どもたちと話をしていないでしょうか。まず、私たち大人から、今一度、相手の顔を見て、挨拶や話をする意識をもって取り組んでいきたいと考えます。

【④「こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。」の項目より】

「できている」が、1年前の81.1%から77.1%に若干低下していました。今年度の企画推進委員会では、「困ったことがないと、A・B群を選べないのではないかな。困った時だけではなく、普段からコミュニケーションをとっているかを聞いてはどうか」とご助言をいただきました。たしかに、全員が今、相談したいことをもっているわけではないため、一理あるかと思います。大切なことは、孤独・孤立していないかどうか、いつでも話を聞くことができる大人が近くにいる環境や関係がつくれているかどうかだと考えます。子ども一子ども、子ども一大人の繋がりを大切にして、普段からコミュニケーションをとっていけるよう、今後もよろしくお願いいたします。

【⑤「だれにたいしてもていねいなことばではなしている。」の項目より】

児童の「できている」が76.7%と、今回のアンケート結果では「できている」が1番低く、また、昨年度の81.1%に比べると4.4%の低下が見られました。以前より「できている」が伸び悩み、注目している項目ではありますが、授業での言葉遣いは、比較的上手にできている印象はあります。学校での休み時間や放課後での友だち同士、あるいは、ご家庭でのことがあるかもしれません。また、「ていねいなことば」＝「乱暴ではない（傷つけない）言葉」「気持ちの良い言葉」という意味で質問していますが、もしかして敬語を使うと捉えていたら、家族や友だちに授業で使うような敬語は使わないことが多いために、A・Bを選択しないこともあるかもしれません。ただ、もしも乱暴な言葉を使っているとしたら、むしろ「できていない」と気づいている子どもたちは、まだ良いです。怖いのは無意識に使っている場合です。学校のように、いろいろな人とコミュニケーションをとれる場で、たくさん会話し、失敗し、気づき、上手になっていってほしいと考えます。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「ご家庭で決めた約束をお子さまが守れるようにするために意識されていること」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。

一部になりますが、まとめて紹介させていただきます。

- ・親も子供との約束を守るように努める。
- ・大人も子供も余裕でやっているのではないから、やってみようと思っている者同士、頑張ろうと声をかけあう。
- ・習慣づくまで小まめに話す。見守りながらまめに根気強く声かけをする。ただし、口から出かかっても、子どもの様子をよく見て、最小限の注意に留めるよう、言葉やタイミングに気をつける。また、声かけをして放っておくことのないようにしている。
- ・時間が近づいてきたら「時計見てね！」と、声かけをする。破ってしまう前に、「お約束したけど、どうする？」と声かけ。
- ・(自分で考えたり、思い出したりしてもらいたいので)「何て約束してたかな？」と子どもに問う。
- ・約束を決める段階で子供にも相談したり、一緒に内容を考えたりする。
- ・規則正しい生活習慣を小さい頃から心がける。
- ・できるだけ命令するのではなく、話し合う形で伝えるよう心がける。
- ・どうして約束を守る必要があるかをきちんと伝えて、本人も納得した上で約束している。
- ・約束したことはその場で紙に書かせたり、目でも確認出来るように絵付きのチェック表つくったりして(見える化)、目につくところに貼る。出来たらシートを折り、何をやったのか分かるようにする。お手伝いをしたら表に印をつけ、ポイント制にしている。一定数貯まったらご褒美をあげる。
- ・下校後は多忙で時間がなくなり、約束が守れないことがしばしばあるため、帰宅後、子どもとその日の予定を確認し、すべきことをこなせる様に一緒に進める。
- ・ハードルを低くして、子どもを信頼する。
- ・「これをしたら、こうする」というような取引になることがないようにしている。
- ・ゲームは宿題が終わってから1時間と決めていて、ゲーム中はタイマーで時間を測っている。はっきりと分かる形で示すと子どもも納得して守っている。
- ・守ったら(大げさに)褒めて、自信をもたせる。
- ・守れなかったときに、責めない。怒らない。理由を聞く。どうして守れなかったかを一緒に話し合って改善策を考える。次からまた頑張れば良いと言う方向に話をする。
- ・守れなかったことの原因を追求することよりも、どのような環境を作れば守れるようになるかを一緒に考えている。ルールを守れると、どんな良いことが起こるのかに注目できるように、本人が自発的に行動できる助けになるよう努めている。
- ・感情的になったら、落ち着いてから話し合いをする。
- ・約束が守れなかった場合、その日の許されているゲーム時間が無くなる。
- ・約束を守らなかった時に、周りにも影響が出ることを具体的に説明する。